

# 集落の将来を考えるサポートツール

—「持続可能な地域づくり」に向けて—

令和7年(2025年)3月  
兵庫県 企画部 地域振興課

# 目次

---

1. はじめに – 集落のワガゴト化ツールとは
2. 集落のワガゴト化ツール
3. 支援者が見立てるツール

# 1. はじめに

---

# 1-1. サポートツール開発の背景

人口減少のさらなる進行により、近年、兵庫県内においては、**多自然地域※1**を中心に**小規模集落※2**が**拡大**しており、個々の集落においても担い手の枯渇が進み、**集落運営の維持・活性化に取り組むことがこれまで以上に困難な状況**となっています。

※1 市街化区域等の市街地を除く自然豊かな地域

※2 世帯数50戸以下かつ高齢化率40%以上の集落

## 県内小規模集落数の状況



# 1-2. サポートツールについて

支援者が地域づくりを進める上で、**それぞれのステップごとに有効な3つのツール**を作成しました。全体を取りまとめたマニュアルのほか、ツールごとのマニュアルや各ツールで活用するデータ集やカルテ、様式集などがあります。

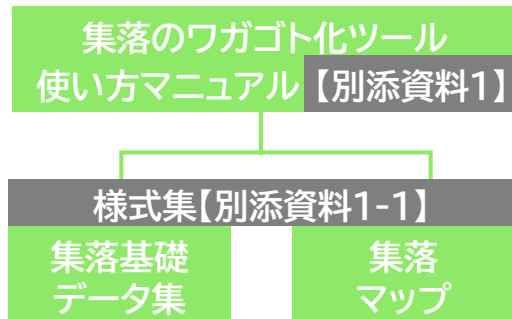
## 集落の将来を考えるサポートツール

### 集落のワガゴト化ツール

【ねらい】

- ・集落の現在と将来の姿※を  
見える化
- ・住民のワガゴト化  
※現状から推測される集落の10年後の姿

【ツール】

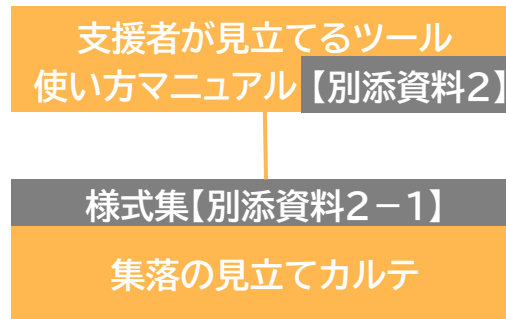


### 支援者が見立てるツール

【ねらい】

- ・支援者が集落の状況を的確に見  
立てることができる  
(集落のタイプ(特性)の把握)
- ・特性に応じた支援手法の検討に役  
立てる

【ツール】



### 集落支援ツール(仮)

【ねらい】

- ・集落が将来に向けた取組を円  
滑に進めていくことができるよ  
うに、集落のタイプ(特性)に応  
じた効果的な支援手法を明確化

【ツール】

※詳細はR7年度検討

## 1-3. サポートツール活用の留意点

○サポートツールは、

- ・集落の正確な情報を集める
- ・集めた情報を元に、集落の支援のあり方を見立てる
- ・支援者どうしの連携を深める
- ・支援者の能力を高める      ことを手助けするツールとして作成しています。

○様々な集落支援で活用できることを念頭に作成していますが、すべての集落の実情を網羅しているわけではありません。

そのため、携わる集落の実情に応じて、

- ・支援者でカスタマイズする
- ・不要な情報を取捨選択する      必要があることに留意してください。

○支援者が負担にならないように、活用していただければ幸いです。

# 1-4. 集落のワガゴト化ツールとは

どんなツール？

地域住民自らが地域の現状や将来像を適切に把握・共有し、**地域の課題を「ジブンゴト」として捉える意識を醸成することを支援するツール**

誰が使うの？

地域支援者の皆さん  
例えば…市町職員、地域再生アドバイザー、中間支援組織の方などの支援者

いつ使うの？

例えば…

【集落から相談や要望があった時】

【自治体が地域づくりの政策検討をしたい時】

集落の将来が不安  
でどうしよう…

サポートツールを  
使ってみませんか？

せっかくの機会だから  
やってみよう

集落でお困りごと  
ないですか？

サポートツールを  
使ってみませんか？



自治会長



市町職員



自治会長



市町職員

どうやって  
使うの？

自治会長等と進め方を協議し、事前に集落の状況をヒアリングした後、住民の方に集まってもらい、「集落基礎データ集」や「集落マップ」を作成

# 1-5. 支援者が見立てるツールとは

どんなツール？

支援者が集落の状況を的確に見立て、必要な支援策を検討するツール

誰が使うの？

地域支援者の皆さん  
例えば…市町職員、地域再生アドバイザー、中間支援組織の方など

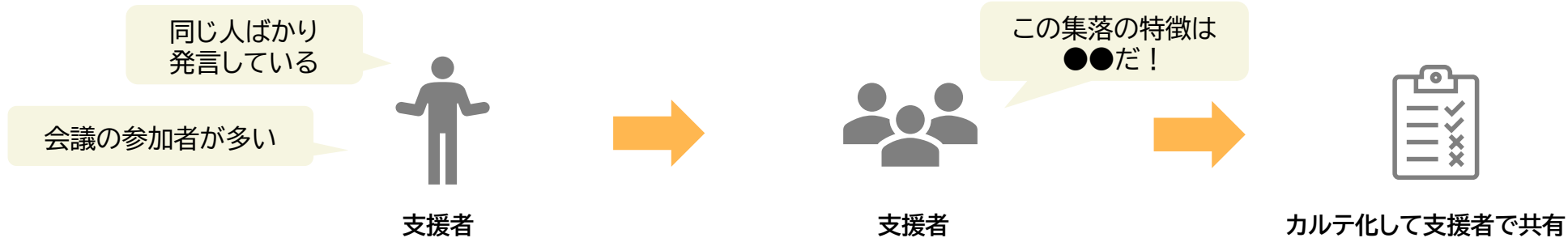
いつ使うの？

例えば…

【支援者どうして集落の状況を共有したい時】

様々なシーンで集落の状況を把握

複数人で話し合っ集落を見立て、所感等をカルテ化



どうやって  
使うの？

「集落の見るべきポイント集」を参考に、  
住民の話し合いや行事など様々な場面で、集落の雰囲気や状況を読み取り、  
複数人の支援者でレポートし、「集落の見立てカルテ」として保存

# 1-6. 集落支援ツール(仮)ツールとは

---

どんなツール？

集落が将来に向けた取組を円滑に進めていくことができるように、**集落のタイプ(特性)に応じた効果的な支援手法を明確化したツール**

誰が使うの？

地域支援者の皆さん  
例えば…市町職員、地域再生アドバイザー、中間支援組織の方など

いつ使うの？

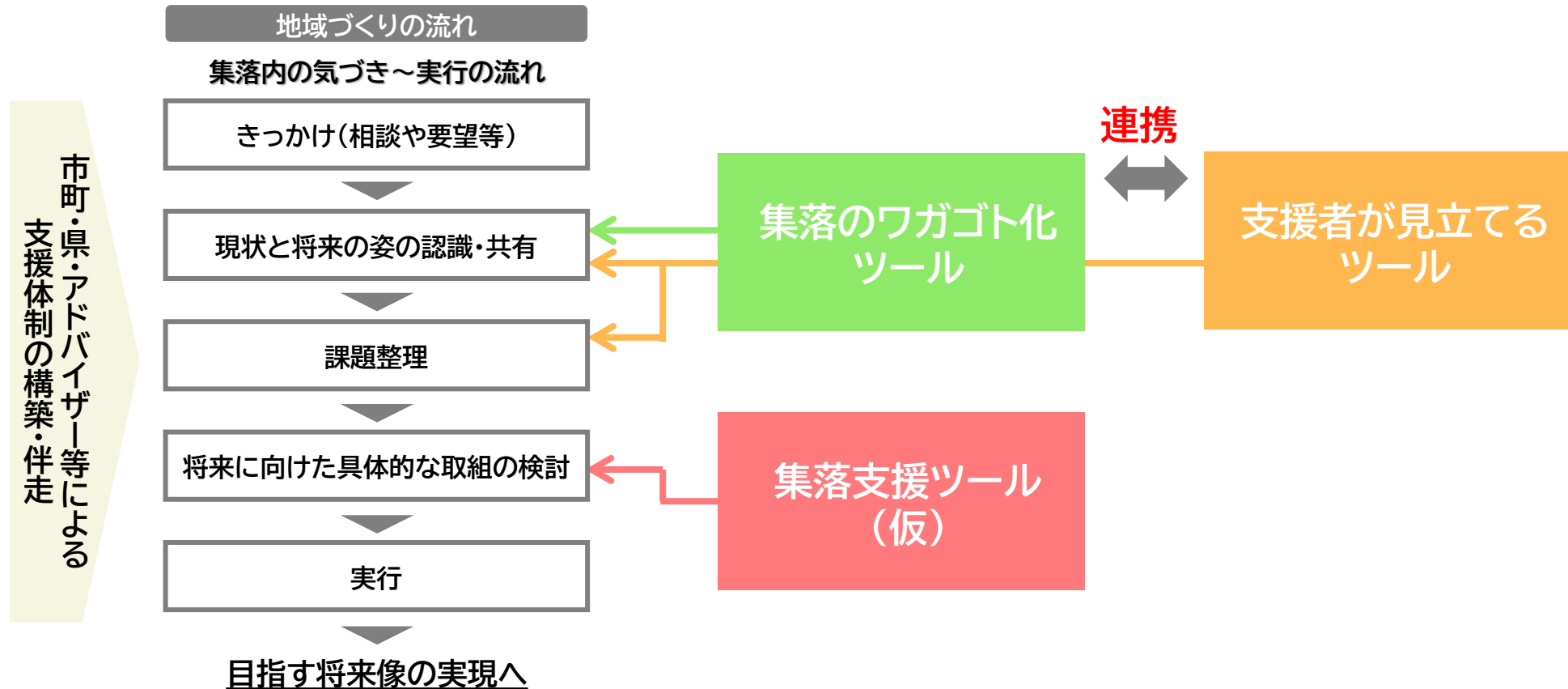
※詳細はR7年度検討

どうやって  
使うの？

※詳細はR7年度検討

# 1-7. サポートツールの活用方法

集落のワガゴト化ツールは、集落の現状や将来の姿を可視化・共有化し、検討を始めるきっかけとして活用します。支援者が見立てるツールは、ワガゴト化ツールの情報も参考に、集落の立ち位置を把握し、課題を整理するために活用します。集落支援ツール(仮)は、具体的な支援方法を検討する際に活用します。



# 1-8. サポートツール活用のための体制づくり

地域づくりの取組には、庁内のさまざまな部署、地域づくりに関係する団体や支援者などの連携・協力体制の構築が重要です。

サポートツールの作成にあたり、関係する方々と集落の情報を共有しながら進めることは、関係者どうしの横のつながりが強まり、体制構築につながります。



## ● 地域づくりに関係する団体や支援者の例

- 社会福祉協議会
- 民生委員
- 集落支援員
- 地域おこし協力隊
- 専門的な人材支援  
(兵庫県地域再生アドバイザー、中間支援組織)  
など

## ● 地域づくりで共有したい集落(地区)情報の例

- 人口・世帯数(推移)
- 地理・歴史
- 住まい・空き家
- 共同施設
- 共同活動
- 活性化活動
- 伝統・文化行事
- 農地・ため池・山林
- 防災(過去の災害被害含む)
- 隣保・組編成
- 集落内の組織・役職  
など

## 2. 集落のワガゴト化ツール

---

## 2-1. 集落のワガゴト化ツールの目的

地域住民自らが地域の現状や将来像を適切に把握・共有し、**地域の課題を「ジブンゴト」として捉える意識を醸成することを支援するツールが「ワガゴト化ツール」です。**

### 【目的】

- ① 「集落の現状」を見える化する(可視化する)
- ② 集落の方が「ジブンゴト」として集落のことを考え、  
主体的に地域づくりを進める  
ことが円滑に進められるように作成したもの(フォーマット)

### 【期待される効果】

- 関係機関と情報共有を図りながら、集落との連携を深める
- 「持続可能な地域づくり」の連携・協力体制を整備する
- 集落の現状を把握し、施策に展開する

## 2-2. 集落のワガゴト化ツールの活用シーン

このツールは、

- 集落から相談や要望を受けたとき
- 集落について、住民どうしでもっと理解したいとき
- 支援者が集落とコミュニケーションをとりたいとき
- 地域づくりの施策検討をしたいとき

などの場面において活用できます。



集落マップの作成の様子(朝来市)

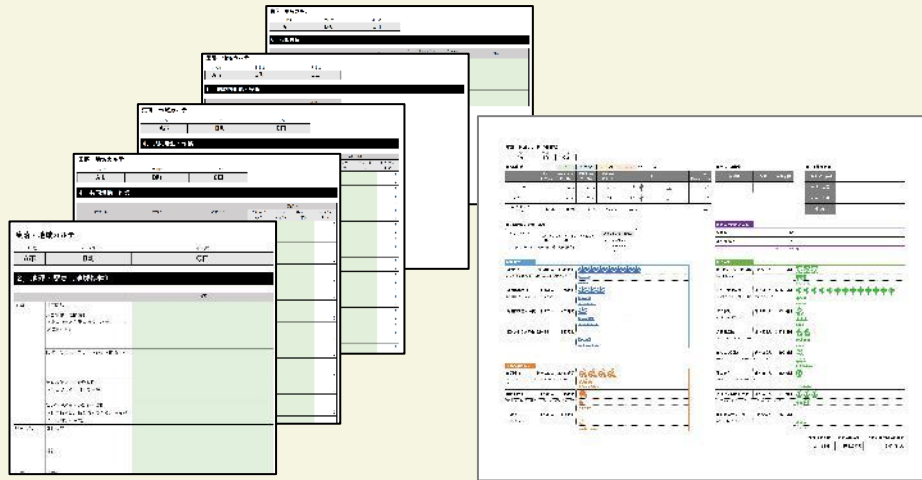


## 2-3. 集落のワガゴト化ツールとは

集落のワガゴト化ツールとは、【A】集落基礎データ集、【B】集落マップの2種類を言います。

### 【A】集落基礎データ集

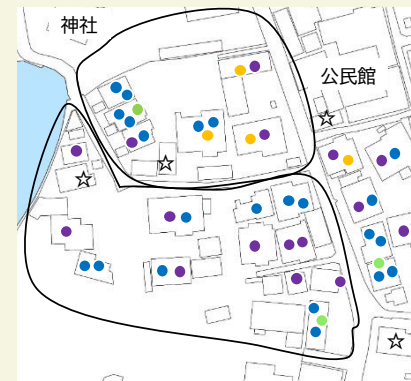
集落の実情(人口、共同活動の様子など)を正確に把握し、住民のジブンゴト化を進める



### 【B】集落マップ

「現在と10年後の集落の姿」を可視化し、住民の方に危機感を持っていただく

現在



10年後



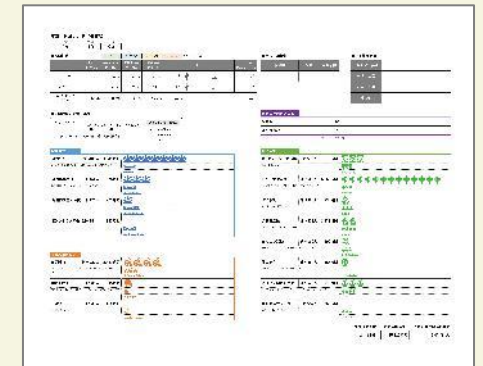
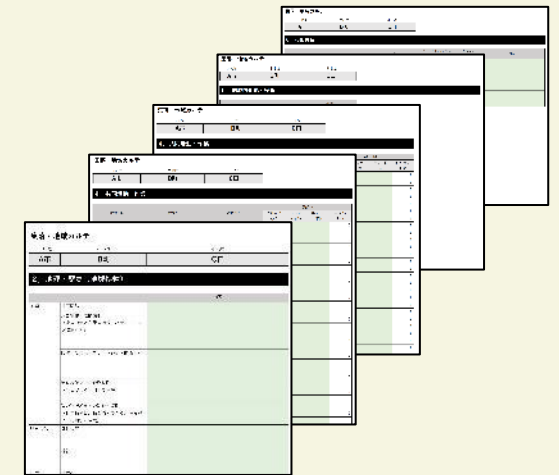
POINT!

- 集落のワガゴト化ツールは「作成すること」が目的ではありません。  
地域で集まり「地域の現状やこれから」を話し合うきっかけとして、活用するものです。

## 2-4.【A】集落基礎データ集とは

### 【A】集落基礎データ集で収集(把握)する項目(例)

項目	内容(例)
ひと・人口構造	人口、年代、世帯、関係人口…
地理・歴史(地域特性)	地区面積、寺社、災害、住宅・空き家、交通…
地域施設	住民の共同管理施設・場所(公民館など)…
共同活動・作業	寄り合いの場、文化活動、防災活動、公民館活動、支え合い活動、環境維持活動…
地域内組織・役員	組織名、隣保・組編成、役職…
参加機会	女性、若者、外部人材の参加…
組織連携	広域や周辺の組織との連携…
資金資産	自治会費・区費、固定資産・預金…



※ 把握する項目の詳細は「集落のワガゴト化ツール使い方マニュアル(別添資料1)」を参照

## 2-5.【B】集落マップとは

### 【B】集落マップで把握する項目(例)

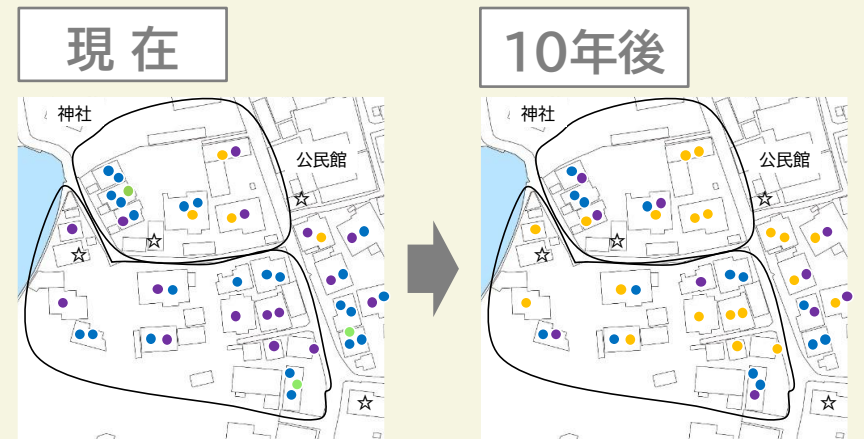
#### ① 地図に書き込む情報

- 世帯とその人数・年齢
- 空き家
- 危険箇所
- 隣保・組
- 農地の管理状況
- 交通 等
- 地域施設・公共施設
- 寺社仏閣

#### ② 話し合いの中で確認していく項目

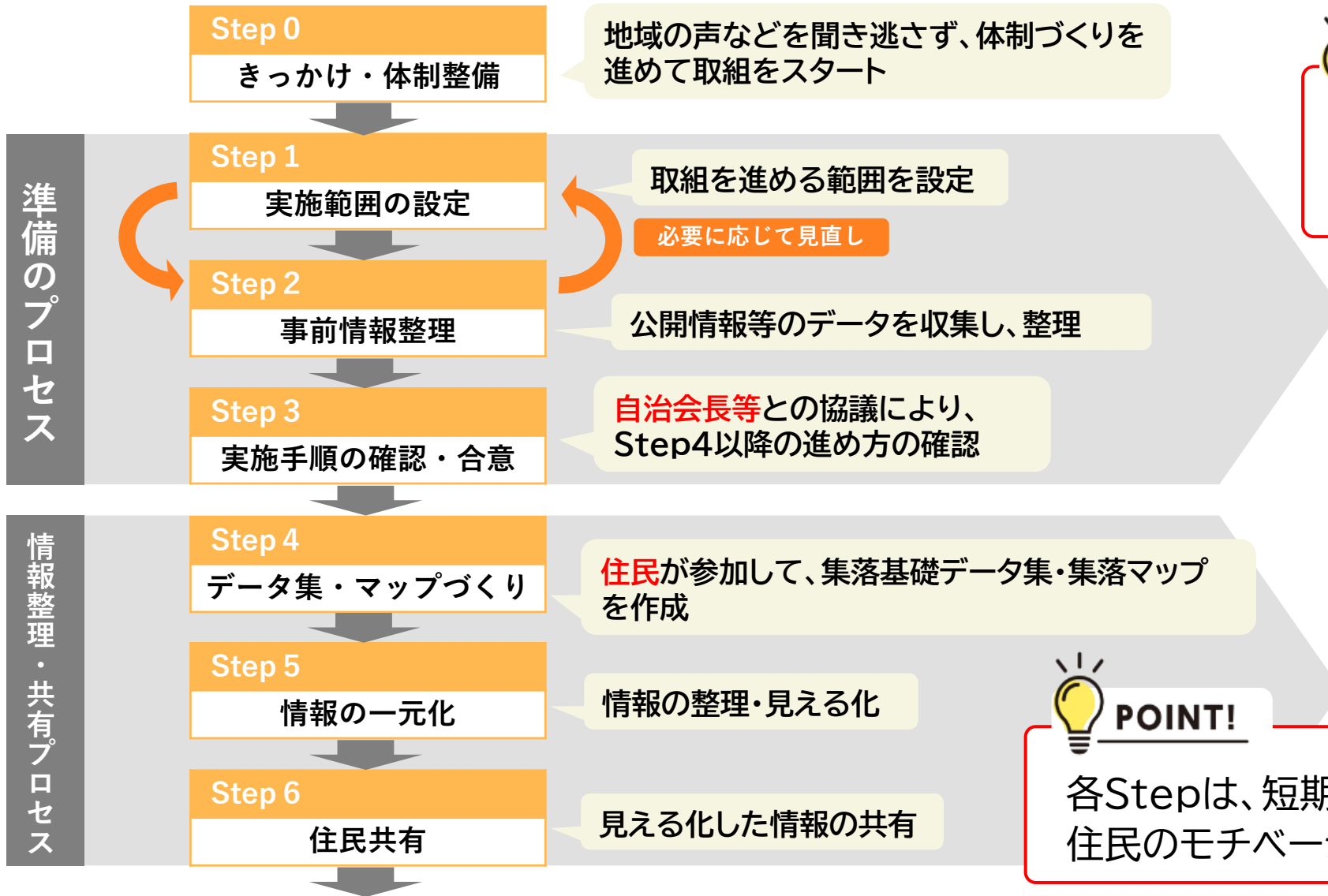
—地図をつくりつつ・眺めながら、以下の項目を話題にしながら、話し合う

- 現在の集落の役職・共同活動の内容など
- 将来について話し合う場・集落の行事・役職等の見直しや変更の有無・状況
- 集落で暮らしつ続けるために必要なこととそれらに対応し、集落で取り組んでいること
- 空き家や農地等の資産・土地利用の対応状況と意向
- その他、将来に向けて気になること・不安なこと・必要なこと
- 集落の魅力や強みなど



※ 把握する項目の詳細は「集落のワガゴト化ツール使い方マニュアル(別添資料1)」を参照

## 2-6. 集落のワガゴト化ツールの手順



**POINT!**

準備プロセスを進めながら  
支援体制を整えましょう



集落マップの作成の様子（朝来市）



**POINT!**

各Stepは、短期間で実施する方が、  
住民のモチベーションが維持できます

課題整理、将来ビジョン等の検討へ

### 3. 支援者が見立てるツール

---

## 3-1. 支援者が見立てるツールの目的

支援者が集落の現状を的確に見立て、必要な支援策を検討するものです。

### 1. 「集落の現状を的確に見立てる(把握する)こと」をサポート

- 集落の将来を考えていく上で、支援者は「どのような雰囲気集落か」、「新しい取組や動きは起こせそうか」などを、さまざまな場面(シーン)から把握することが求められます。
- これらは支援者の経験や感覚で行われることが多いですが、その指針として参考項目を示しながら、「集落の見立て」をサポートします。

### 2. 「集落の今後の支援活動につなげること」をサポート

- 「現在の地域の立ち位置(=集落の見立て)」と「集落が目指す姿」とのギャップを把握し、それぞれの集落の状況に応じた、きめ細やかな支援活動につなげることをサポートします。

### 3. 「支援者間の対話の場づくり」をサポート

- 「集落の見立て」は、支援者間や集落の状況を知らないメンバーに共有するツールとして「場づくり」にも活用できます。



#### POINT!

「支援者が見立てるツール」は、集落の主体的な取組を促すことを手助けするものです。

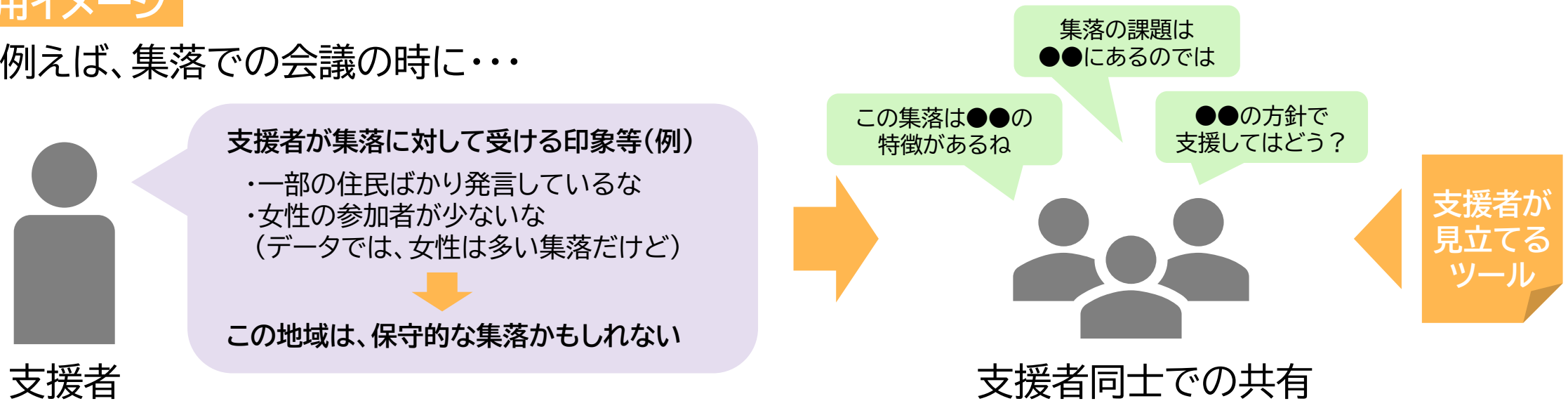
※集落に直接的に何かを起こさせるものではありません

## 3-2. 支援者が見立てるツールの活用シーン

集落の支援策を検討するためには、集落の現状を的確に見立てて、支援者同士で共有することが重要です。そのため、会議などの場面(シーン)で、**支援者が考えていることを言語化し、共通言語として支援者同士での共有をサポート**します。

### 活用イメージ

例えば、集落での会議の時に...



※その他にも、集落の現状を見立てる場面(シーン)はさまざまあります

- 役員等との打ち合わせ時
- 集落の視察時(訪問時)
- 住民の話し合い時(会合・寄り合い時)
- 総会資料等の確認時
- イベント・行事の参加時

# 3-3. 支援者が見立てるツールとは

「支援者が見立てるツール」は、「**集落の見立てカルテ**」を指します。  
 また、「集落の見立てカルテ」を作成するために、集落の見るべき視点やポイントの指針として「**集落の見るべきポイント集**」があります。

## 支援者が見立てるツール

※ツールの使い方や詳細は、マニュアル(別添資料2)を参照

### 集落の見立てカルテ

支援者が作成するもの

- ・集落の現状を見立てる場面(シーン)で気付いた所感を、**複数人の支援者で共有し、カルテとして保存。**
- ・「現在の地域の立ち位置(見立て)」と「集落が目指す姿」とのギャップを把握し、そのために必要な支援を検討する。
- ・必要に応じて、集落のタイプ分けを行う。

参考

### 集落の見るべきポイント集

- ・集落に入る際に、支援者として見るべき視点・ポイントを示したもの。
- ・住民の話し合いや行事の様子などをもとに、集落の状況を把握し、「**集落や支援方法の見立てを支援者が考える際に参考**」とする。

## 3-4. 集落の見るべきポイント集とは

「集落の見るべきポイント集」は、把握項目ごとに集落を見立てるポイントを例示し、集落を見立てることをサポートする指針です。

「集落を見立てる」にあたって把握する項目

※下記4項目ごとに「見るべきポイント」を記載



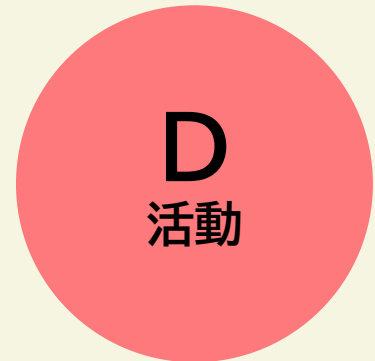
- 様々な世代・性別が交流しているか
- 人材がいるか



- 情報が共有されているか
- 危機意識が共有されているか



- チームワークがあるか
- 各種団体が一体的に動いているか



- 地域活動が積極的に行われているか
- 外部の団体等と連携しているか

※集落の規模・状況により、把握するべき項目は変わります。

# 3-5. 集落の見立てカルテとは

「集落の見立てカルテ」は、集落の現状を見立てる場面(シーン)において気付いた所感を、複数人の支援者でまとめるものです(コミュニケーションのきっかけとするもの)。

## 支援者同士の話し合いにより、「集落の見立てカルテ」を作成


### ● INPUT(支援者各自で集落の見立て)

A 多世代交流	⇒ ○○パターン
B 人材	⇒ ○○パターン
C 情報共有	⇒ ○○パターン
D 地域の一体性	⇒ ○○パターン



### ● OUTPUT(集落の見立てカルテ)

把握項目	詳細
見立てた概要	日付、作成者
集落の特徴	相談のきっかけ、課題、強み、特殊事情等
集落の所見	A~Dごとのタイプ分け、所見、総評、確認すべき事項
支援の方針	目指すこと、支援方針



# 3-5. 集落の見立てカルテのイメージ

## 「集落の見立てカルテ」の様式

〇〇市集落の見立てカルテ

集落名	●●集落		作成者	●●●●●●
			作成日時	令和●●年●●月●●日
課題 (相談のきっかけ)	(例) 自治会長から高齢化が進み、今後の地域活動が難しくなってきたと相談を受けた。			
集落の状況 (集落の強みや特徴、 特殊事情があれば記載)	(例) 中山間地域に位置する農村集落。 (ネガティブな話ばかりにならないように強みや特徴を記載、また「地区内に開発された分譲地がある」など、特殊な事情があるときはその旨を記載)			
1) 集落パターン				
集落パターン	A 多世代交流・活躍	B 情報共有	C 地域の一体性	D 活動
	(例) 役員主導型	(例) 特定人材共有型	(例) バラバラ型	(例) なんとか継続型
所見	(例) 役員は頑張っているが、他がついてきていない	(例) 役員間のみで話し合いが行われている	(例) 行事の参加者・協力が固定されている	(例) 活動に疲弊感がみられ、継続性が危ぶまれる
総評	(例) 役員のなり手が少なく、固定化している。役員に危機意識はあるが、地域住民に広く浸透していない。人材不足で新たな取り組みが進みにくい。			
確認事項	(例) 〇〇のような状況で、〇〇と見立てたが、まだ、集落の一部しか見られていないため、正確ではない。			
2) 支援の方針				
集落のありたい姿	(例) 50年後も住み続けられる環境を維持する			
支援の方針 (確認すべきこと等)	(例) 地域内での対話の場を増やし、課題意識を啓発していく必要がある。外部の人材の受け入れ体制整備など、集落活動の継続性を検討する必要がある。			
(参考)				
集落タイプ	カリスマ頑張り型			
所見	(例) 役員や特定の個人が中心に活動を行っており、地域住民にその活動が広がっていない。役員等の高齢化により、今後の集落活動の存続が危ぶまれる。			



- 支援者の集落への関わり程度により、見立てが異なることがあるため、「誰が・なぜそのように判断したのか」の理由を記載しておくことが大切です。
- 「集落の見立てカルテ」をファイリングすることで、変化の確認や引継ぎに役立ちます。
- 集落を見立てる際は、集落のよいところだけではなく、問題であるところも意識して判断する必要があります。
- できれば地域再生アドバイザーなどの外部の専門家を交えて、支援の方針を検討しましょう。